



▲ワインリゾートクリスマスではワインのコルクを材料にしたクラフト体験やワインにちなんだクリスマスマーケットなども開催された



▲「ハケ岳ロゼタウン」は3月19日から4月24日にかけて開催される予定。今後も地域の魅力を発信するイベントに力を入れていく考えだ

そのまま廃棄されてしまうものも多い。藤森氏はそうしたワインボトルを活用した「ワインボトルツリー」のイベントを企画。19年12月に第1回イベントを開催、2回目となった20年にはワインボトルツリーの数を増やして、さらに煌びやかな世界観を構築。2回とも好評だった。3回目の準備を進める中で、藤森氏はさらなる再利用にも挑戦した。

「これまで使用したボトルは劣化し、ラベルも剥がれてきています。これを加工して、再利用できないかと考えました」

思案を巡らせ、様々な企業に相談を持ちかけた中で藤森氏を唸ら

せたのが、ハヤシ・アンド・カンパニー(株)の林和央氏による「モザイクワインボトル」づくりの技法だ。同社は、雑貨商品開発やアクセサリー製造、販売促進プロデュースなどを手がけ、星野リゾートと同様に地域の魅力発信にも取り組む。リゾナーレハケ岳にもワインの廃ボトルでつくったアクセサリなどを納品、また同施設のウェディング限定で、山梨県内の間伐材で作ったリングピローやリーフドロップスなども提供する。

林氏のワインボトルツリーの製作における最大のポイントは、廃瓶を割り、その破片一枚一枚をバーナーで溶かして面に貼り付けている

点で、その枚数は3万枚を超えた。「気の遠くなるような作業ですが、そうすることで光の入りが変わってきます。またアクセサリー製作で使用している特殊な硬化剤も使用しています。これは接着剤の代わりにもなりますが、ガラスの光を通しやすくしてくれます」と語る。

林氏のつくったモザイクワインボトルツリーの完成度は非常に高く、来場者からも評判だった。

「第3回のイベントにも多くのお客様にお越しいただき、SNSでの反応も好評でした。ワインボトルツリーのラベルを見て、山梨県・長野県の地元のワイナリーのものだと思える来場者もおられ、改め



▲第3回のワインリゾートクリスマスイベントは21年12月1日から25日に、新型コロナウイルスの感染拡大対策を徹底し開催された



使用済みのワインボトルを活用したツリーが照らし出す地域の魅力

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

## リゾナーレハケ岳ワインリゾートクリスマスに見る地域密着とSDGs



▲リゾナーレハケ岳外来事業支配人 藤森崇行氏

ワインレッドのカーペットが敷かれたホテルのメインストリート「ピーマン通り」に使用済みの約1万2千本のワインボトルを活かして作った「ワインボトルツリー」がずらりと並ぶ。そこでは廃棄されるワインボトルを再形成してつくった3mの「モザイクワインボトルツリー」も輝き、笑顔のファミリーやカップルが幸せそうにそれを眺めている…。

「星野リゾート リゾナーレハケ岳」がこの2021年12月に開催した「ワインリゾートクリスマス」は、地域の魅力を発信する、またSDGsを意識したイベントとして大きな注目を集めている。

CSV経営を進める(株)星野リゾート。同社では、CSV経営を「経済的価値を創造しながら、社会的ニーズに対応することで社会的価値も創造する」として位置づけ、そのフレームワークとしてSDGsを捉えている。また地域の魅力が高まることはホテルの業績に直結し、地域の魅力を発信することで地域のブランド力向上に

貢献できるという考えから、地域の魅力発信の取り組みを進める。リゾナーレハケ岳で行われている「ワインリゾートクリスマス」もそうした取り組みの一つだ。

ワインリゾートならではのクリスマスイベントが好評

リゾナーレハケ岳は、日本有数のワイン産地である山梨県と長野県の県境、山梨県北杜市に立地する。大人も子供も満足できるファミリーリゾートを志向する同施設では、その立地特性を活かして、ワインを飲むだけでなく、ワインにまつわる知的体験も提供する「ワインリゾート」をコンセプトに掲げ、様々な取り組みを進めている。

その中でもとりわけ好評なのが2021年12月の開催で3回目を迎えたワインリゾートクリスマス、ワインボトルツリーだ。

同施設では、これまで様々な趣向を凝らしたクリスマスのイルミネーションイベントを開催し、好評を博してきたが、イベントを担当する外来事業支配人の藤森崇行氏はかねてからよりワインリゾートらしい、地域の魅力を活かした取り組みができないかと他のスタッフとも検討を重ねていた。そこで注目したのが使用済みのワインボトルだ。

使われなくなったワインボトルの中には経済性や安全性の問題からリユースやリサイクルが難しく

て地場のワインを身近に感じていただける機会にもなったのではないかと考えています(藤森氏)。

ワインリゾートクリスマスは、地域の風物詩とも言えるイベントとなっており、長野県や山梨県から毎年、訪れる来場者も多い。そうしたリピーターにも特にモザイクワインボトルツリーは好評だったという。

今後もしもリゾナーレハケ岳では、地域貢献を意識した様々なイベントを展開していく考えで、例えば、この3月から4月にかけてもピーマン通りで、ロゼ色に彩られた街並みで、ロゼワインを楽しむイベント「ハケ岳ロゼタウン」も開催する予定。藤森氏は、今後も地域の魅力発信に注力していきたいと語る。

「リゾナーレハケ岳が位置する北杜市の魅力は、豊かな自然です。またその素朴さも多くの人を魅了していると感じています。例えば、ワイン造りにおいても環境と自然にも配慮した本場に素晴らしい造り方をされているワイナリーさんが多くいらっしゃいます。が、わざわざそれを宣伝されないという方も多くいます。そうした地域の良さを磨き上げ、発信していく一助となるような取り組みを今後進めていければと考えています」

「ワインリゾートクリスマス」はまさに星野リゾートのCSV経営を体現するような取り組み。ギフト流通ビジネスに携わる我々にとっても学ぶことが多い。